

# 大丸有デジタルツイン活用実証事業(大手町・丸の内・有楽町地区 スマートシティコンソーシアム)

## ■都市課題

日常・非日常のレジリエンスの増強／車椅子ユーザーに対し1人1人にリーチしたバリアフリーや防災情報発信ができていない、必要なデータ整備や活用ができていない

## ■解決方策

官民、建物内外の分断なく情報発信するフロントサービスの実現と、それを支える基盤とデータの整備、それらを防災人流シミュレーションへ発展させる検討に着手

## ■KPI

車椅子ユーザーからの満足度50%

## ■実証実験の概要・目的

地区滞在者、特に災害時の要配慮者でもある車椅子ユーザーをモデルに、防災×バリアフリーに関しての地上・地下の官民データを収集・活用する方法と都市の管理・活用を高度化する機能を見出す事業。汎用的なエリア内の地図関連データの取得方法等を検討。

## ■実証実験の内容

### ①フロントサービス

2022年9月にOh MY MAPスムーズ地下防災バージョンの提供を実現。地下のB1 - B5までの階層毎のデータを一体的に表現し、面的かつ立体的な表現を検討。車いすユーザーとのフィールドワークショップを通じ実サービスの改善を重ねた。

### ②基盤とデータ整備

官民、建物内外・複層階の分断なくつながる地図関連情報を構築。オープンソースソフト等を活用し、エリマネ自らデータ更新できる姿を目指した。

### ③3D表現、防災まちづくり

データを防災×3Dの人流シミュレーションにも活用。(都市再生安全確保計画とも連携)

【フロントサービスの地下表現】



【車いすユーザーとのフィールドワークショップ】



## ■実証実験で得られた成果・知見

- 4か月間で3000人以上のユーザーが利用し、2月には180名のリポーターを確認した。車椅子ユーザーとのフィールドワークショップで得られた実際の利用者の声を通じ、バリアフリールートの表示方法等を改善した。フロントサービスの満足度としては、**車椅子ユーザー5名全員が50%以上を回答(平均70%)**。
- 既存のシステム機能を活用し2.5D表現の可能性や、地下から地上へあがるエレベーターの**立体的表現**が効果的であることを確認。**都市OS**の機能拡充を行い、**3種類の地図の形状データを重畳**。**50種類の地物情報も整理**。
- シミュレーションは、エリアにかかる関係者間で**防災対策に関する共通認識化と具体的な議論を推進するツール**となった。

## ■今後の予定

地図データやサービスがエリアに有効であることから、データ著作・更新・運用等の課題がありつつも、**本実証による実装した機能は継続**し、都市運営の高度化やエリア来訪者の安心感醸成に繋げていく。

	フェーズ1/2020-2022年度	フェーズ2/2023-2024年度	~
サイロビスト	移動回遊VER スムーズ地下防災VER	【都市のアップデート フェーズ2】 実装内容をさらに充実させ 継続改善に取り組む	
	MICE検討		